

2021年5月6日

2021年度日本家族社会学会大会ニュース No.1【更新版】

編集・発行：日本家族社会学会研究活動委員会
委員長 嶋崎尚子（早稲田大学文学学術院）

Email : nshim@waseda.jp

日本家族社会学会第31回大会（オンライン開催）の概要と報告募集のご案内

日本家族社会学会第31回大会については、3月にお届けした大会ニュース No.1では本年9月4日（土）・5日（日）九州大学伊都キャンパスにて開催することをお伝えしておりましたが、その後また新型コロナウイルスの感染拡大が急激に進んできたため、対面での大会開催を断念することになりました。大会実行委員長・山下亜紀子会員をはじめ、大会実行委員ならびに関係者のみなさまには、多くの会員を九州大学に迎えることを楽しみにここまで準備を進めてきていただいたこと、あらためて感謝申し上げます。昨年度も対面開催ができなかったため、「今年度こそ対面で」という思いは研究活動委員会にも強くあり、また多くの会員も「ぜひ九州に行きたい」と楽しみにされていたと思います。しかし、ワクチン接種もまだ始まったばかりで9月はどのような状況か見通しが立ちません。対面開催としていて大会の直前になって中止となることを避けるためにも、今の段階で、「今回もオンライン開催」と方向転換することになりました。残念ではありますが、どうかご理解いただきますようお願いいたします。

研究活動委員会では、昨年度のオンライン開催の経験を活かし、さらに充実した大会となるよう大会実行委員会と協力して準備してまいります。ここに、大会ニュース No.1更新版をお届けし、みなさまにはオンラインでの大会に奮ってのご参加をお願い申し上げます。

=====

1. 大会の構成

現時点では、以下の構成を予定していますが、応募数などによって変更する可能性があります。プログラムは7月発行予定の大会ニュース2号でご確認ください。

第1日目 9月4日（土）…Zoomを用いたオンライン開催

午前 自由報告(1) テーマセッション 国際セッション

午後（第1部） 総会・会長講演

午後（第2部） 自由報告(2) テーマセッション

第2日目 9月5日（日）…Zoomを用いたオンライン開催

午前（第1部） 自由報告(3) テーマセッション

午前（第2部） 自由報告(4) テーマセッション 国際セッション
午後 大会シンポジウム

2. 参加方法について

大会参加を希望される会員は、**事前に参加登録と参加費の納付が必要です**。今大会はオンライン開催のため、**事前参加登録のみで当日参加登録はありませんので、ご注意ください**。手続きの詳細はプログラムとともにお知らせします。

【大会参加費】

一般会員：2,500円

★学生・会費減額申請が承認された会員は無料です。ただし、参加登録は必要ですのでご注意ください。

非会員：一般・学生とも一律 3,000円

【参加登録期間】

郵便振替・振込：7月2日（金）～8月23日（月）14時

クレジットカード：7月2日（金）～8月30日（月）14時

※「Zoom」ミーティング URLなどは、参加登録者に別途お知らせします。お知らせは、9月2日（木）に登録のメールアドレスへ発信する予定です。

※報告要旨集は、例年どおり大会HP上で公開します。8月25日（水）公開予定です。

※報告資料は、参加者にダウンロードしていただきます。詳細については、別途お知らせします。

3. 大会シンポジウム（「パブリック／プライベート」空間の重なりと家族・ワークライフバランス——「職住分離の不明瞭化」の影響を考えるために(仮)）

10期2年目の大会シンポジウムは、新型コロナ禍のもとで加速された「パブリック／プライベート」の空間的重なりが、家族・ワークライフバランスなどに及ぼす影響を考える契機として開催したいと思います。

近代社会における「職住分離」という構造は、家族社会学の様々な主題において重要な与件の一つでした。ところが、情報通信技術（ITC）の進展で従来の「職場」空間に限定されない働き方が可能となり、新型コロナ禍のもとでその一つの形態である在宅勤務が急激に増加したのは周知の通りです。こうした「パブリック／プライベート」の空間的重なりの進行は、ワークライフバランスをはじめとして、男性稼ぎ主型家族（近代家族）、及び男性稼ぎ主型モデルの社会にも大きな影響を与える可能性が考えられるでしょうが、その影響の全体像を把握するのは容易なことではありません。

ただ、議論の手がかりは幾つかあると思われます。「パブリック／プライベート」の空間分離は、高度経済成長を縁の下で支えた自営業（特に自営業の妻）では自明ではなく、ま

た近年「新しい働き方」として唱道されてきたリモートワーク・テレワークでも異なります。また、物理的に「パブリック／プライベート」の空間が分離していないことは、その空間分離のもとで容易となっていた生活時間上の「公私の区別」を難しくする（＝「仕事／プライベート」の時間のマネジメントを難しくする）ことも考えられます。

そこでパネリストとして、テレワークの労働の自律性とその強化（「新たな働き過ぎ」）の問題を研究されている高見具広先生、自営業の妻の労働について研究されている宮下さおり先生、生活時間について研究されている品田知美先生にご登壇頂きます。パネリストの方々の議論を受けて、高橋美恵子先生・筒井淳也先生に、ワークライフバランス等の観点から討論をお願いしています。

本シンポジウムは、「職住分離」の不明瞭化が及ぼす影響の全体像について一定の「答え」を出すというよりは、家族社会学にとってこの問題をどのように検討していくかを考える出発点として位置づけたいと考えています。

パネリスト： 高見具広氏（労働政策研究・研修機構）

宮下さおり氏（名古屋市立大学）

品田知美氏（早稲田大学）

討論者： 高橋美恵子氏（大阪大学）

筒井淳也氏（立命館大学）

企画： 安藤 究（名古屋市立大学）

4. ポスターセッションについて

今大会では、昨年同様にポスターによる自由報告を公募は行いません。自由報告は口頭報告のみとなります。

5. テーマセッション・国際セッション・ラウンドテーブル・書評セッションについて

これらについては、申し込み受付はすでに終了しております。

6. 自由報告（口頭）の申し込み要領と締め切りについて

- 報告申し込み・要旨原稿提出ともに受付開始は4月16日（金）、締め切りは5月20日（木）です。報告題目に必ず要旨原稿を添えて申し込んでください。
- 連名報告は認められていますが、口頭報告では1報告あたりの発表者は1名です。
- 日本語以外に、英語での報告も受け付けます。
- 要旨原稿は、大会ホームページのテンプレートのフォーマットを順守して、作成してください。日本語と英語で異なります。ご注意ください。
連名報告の場合のみ、口頭発表者の前に○を入れてください。
- 提出先は、大会ホームページより、マイページと同じ会員番号とパスワードでログイン

ンして申し込んでください。

7. その他の特記事項

■ 報告者の資格要件

報告は、本学会会員でありかつ定められた会費を納入していることを資格要件とします。現会員の方は、前年度（2020年度）までの未納会費がないよう注意してください。新入会員については、5月6日（木）までに入会手続きを行い、その後会費を納入してください。会費納入期日はいずれも5月11日（火）です。ただし、国際セッションの報告については、会員以外の報告を認めます。

- 大会当日配布冊子に広告掲載をご希望の方は鳴崎までメール（nshim@waseda.jp）にてお問い合わせください。

8. 今後の予定について

7月初旬には大会ニュース No.2(大会プログラム)を公開します。大会に関する情報は、学会のホームページやメールマガジンで逐次お知らせしますので、ご覧ください。

（研究活動委員長 鳴崎尚子）

9. 大会実行委員会から

実行委員会では、対面開催をめざして準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の現状を鑑み、第31回大会も昨年度に引き続き、オンラインにて大会を運営することとなりました。大変残念ではありますが、研究活動の継続を最優先事項とし、有益な学会大会となるべく、お役に立ちたく存じます。

今回の実行委員のメンバーは、本学教員の安立清史、高野和良、藤田智子、翁文静、山下亜紀子（いずれも敬称略）から構成されております。この地でお会いすること願いはありませんでしたが、オンライン形式の学会開催により、より多くの方と出会えますこと、また研究交流の広がりがあることを願っております。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（第31回大会実行委員会委員長 山下亜紀子）